

# 小中一貫教育に関する研究

～児童生徒のコミュニケーション力の育成を図る9年間を見通したカリキュラムの編成～

高知市立土佐山中学校 教諭 朝倉 恵利子  
高知県教育センター 指導主事 三好 文

本研究の目的は、コミュニケーション力の育成をねらいとした小中合同授業の実践・検証を通して、効果的な小中合同授業の設定について明らかにし、小中一貫校におけるカリキュラム編成の考え方を確かむことであった。小学校3・5年生と中学校1年生を対象とした国語科の合同授業を実施し、児童生徒の言動や授業評価カード等の分析によってその有効性を検証するとともに、効果的な小中合同授業の在り方について検討した。授業において、コミュニケーションに関する意識や行動の変容が全ての学年の児童生徒に見られ、小中合同授業の有効性が実証されるとともに、授業を実践・検証するプロセスを通して、9年間を見通した指導の在り方について小中学校教員間で共有化が図られた。また、コミュニケーション力育成に効果的な小中合同授業設定の7つの視点が明確になるとともに、9年間を見通したカリキュラム編成の実現には、系統性のある小中合同授業をカリキュラムに明確に位置付けることが重要であることが示唆された。

**キーワード**：コミュニケーション力育成、小中合同授業、共有化、9年間を見通したカリキュラム編成

## 1 研究目的

高知市土佐山は人口1,000人ほどの中山間地域であり、平成18～22年の5年間では、年平均30人程度の減少が続いている。そこで、高知市は「人口減少」という課題を克服し、持続可能な地域として存続していくために「土佐山百年構想」を打ち出した。その一つに掲げられているものが、「社会学一体・小中一貫教育プロジェクト」であり、現在、土佐山小学校と土佐山中学校（以下「土佐山小・中学校」とする）を平成27年度から小中一貫校として開校するための準備が進められている。土佐山小中一貫校では、地域の人々とかかわり合いながら土佐山のことを学ぶ「土佐山学」等、土佐山独自の取組を実施しようとしている。

小中一貫教育の取組は全国各地で進んでいるが、地域や学校の実態に即した小中一貫教育を実現するためには、まず、自校の児童生徒の課題を明らかにする必要がある。土佐山小・中学校に共通する課題としては、コミュニケーション力が弱いことが挙げられる。これは、小規模校であるため、学級や学校だけでは、かかわり合う機会や対象が少なくなってしまうことが原因の一つとして考えられ、この課題を解決するためには、他者とかかわり合う場を意図的に設定し、全教育活動を通して取り組んでいく必要がある。

土佐山小・中学校では、既に、乗り入れ授業（小学校の教員が中学校で、中学校の教員が小学校で行う授業）等の取組を始めている。しかし、児童生徒の発達段階や小中学校の学習内容の関連性等を、

十分に理解したうえでの指導や小中合同授業の実施までには至っていない。小中合同授業は、異学年の児童生徒がかかわり合うことによって、他者への思いやりの気持ちが醸成されたり、相手に応じた適切な話し方を身に付けることができたりする等、児童生徒の課題であるコミュニケーション力の育成に有効であると考え。また、この小中合同授業を実践・検証するプロセスにおいて、9年間を見通した系統的なカリキュラム編成の考え方が明らかになるとともに、その考え方について小中学校教員で共有化が図られるものと考え。

以上のようなことから、本研究では、小中合同授業を実践し、その有効性を検証することによって、コミュニケーション力の育成を図る「9年間を見通したカリキュラム編成」の考え方をつかみ、より良い小中一貫教育の在り方を探っていくこととする。

## 2 研究仮説

コミュニケーション力の育成をねらいとした小中合同授業を実践し検証することによって、効果的な小中合同授業の設定が明らかになり、「9年間を見通したカリキュラム編成」の考え方をつかむことができる。

## 3 研究内容

### (1) 本研究におけるコミュニケーション力の定義

本研究では、土佐山小・中学校の課題から、育てたいコミュニケーション力を「人間関係を築くことができる能力」とし、「自分の思いや考えを伝える力」、「他者の考えを理解する力」、「他者の考えを受け止める力」、「他者とかわる力」の4つの力の育成を図ることとした。

①自分の思いや考えを伝える力	相手や場面に応じて自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができる。
②他者の考えを理解する力	相手の話をよく聞き、相手の考えを理解することができる。
③他者の考えを受け止める力	相手の考えを取り入れたり、歩み寄ったりすることができる。
④他者とかわる力	課題解決に向けて、積極的に人とかわることができる。

### (2) 実践研究

#### ア 小中合同授業の有効性

土佐山小学校3・5年生と土佐山中学校1年生による国語科の合同授業を行った。授業の題材には、それぞれの教科書で取り上げられていることや、地域の自然に触れることができるものであることなどから「俳句」を取り上げた。

授業では、俳句の説明を行う活動や俳句づくり等を通して、全ての学年の児童が、相手に応じた話し方の大切さに気付いたり、相手のことを思いやりながら異学年や地域の人々とかわったりするようになる等、コミュニケーションに関する意識や行動に変容が見られた。また、上学年は、3年生に俳句のきまり等を説明するという明確な目的があったため、既習事項を振り返りながら意欲的に活動することができた。3年生にとっても、俳句について上学年から知識を得ることができたことは、学習に対する興味・関心を高めることにつながった。このようなことから、小中合同授業は、児童生徒のコミュニケーション力や学習意欲の向上に有効であることが分かった。また、小中学校教員が事前の打ち合わせを行い、共に学習指導案の検討を行ったことは、学習の系統性や学年に応じた指導の仕方を理解することにつながった。

一方、課題としては、中学生が下学年に対して分かりやすく伝えるという点において、自己

のコミュニケーション力を十分に発揮することができなかつたことが挙げられる。このことは、中学生一人一人のコミュニケーション力の不足というよりは、こういった、下学年に分かりやすく伝えるといった経験が不足していることが要因の一つであると考えられる。したがって、この課題を解決するためにも、小中合同授業を導入することの意義があると考えられる。

#### イ コミュニケーション力の育成を図る9年間を見通したカリキュラムの編成

前述の結果から、小中合同授業はコミュニケーション力の育成に有効であるものの、単発的な授業ではコミュニケーション力の育成に十分な効果が上がらず、系統性のある合同授業を明確に位置付ける必要があることが明らかになった。そこで、コミュニケーション力の向上を目指した、効果的で系統立った小中合同授業を設定するために、以下のような視点を考慮する必要があると考えた。

- ①各学年の教材に関連性があるもの
- ②（上学年にとって）既習事項の活用場となるもの
- ③（下学年にとって）身に付けたい力のモデルを得るもの
- ④学習内容を発表する等、相手意識や目的意識をもって学習を進めるための契機となるもの
- ⑤地域の自然や文化に触れながら、地域の人とかかわることができるもの
- ⑥班やペアで教え合ったり、協力して取り組めたりすることができるもの
- ⑦共通の課題に対して、意見を出し合い、解決を図ることができるもの

このような視点に沿った小中合同授業を開発することが、9年間を見通したカリキュラムを編成することにつながり、それらを9年間の中に明確に位置付けることによって、系統的・計画的に指導していくことが可能となると考えられる。

#### ウ 小中一貫教育についての校内研修

合同授業後、中学校の校内研修において、小中一貫教育について検討する研修を実施した。そこでは、コミュニケーション力を育成するために各教科・領域等でどのような小中合同授業が可能であるかについて、前述の視点をもとにして検討を行い、様々な授業案を得ることができた。

## 4 研究の成果と今後の課題

コミュニケーション力を育成するための9年間を見通したカリキュラムを編成するために、小規模校の強みを生かして、土佐山小・中学校においてこれまで行われていなかった小中合同授業に着目し、実践・検証を行った。その結果、授業における児童生徒の変容から、コミュニケーション力を育成するために、小中合同授業が有効であるという確かな手応えを感じることができるとともに、小中一貫校のカリキュラムの中にこれを位置付けることが重要であることが分かった。また、授業の実践・検証を通して、そのことを小中学校教員が共有することもできた。

今後は、校内研修で出された合同授業案を整理して9年間を見通したカリキュラムを作成し、授業を実施していくことで、児童生徒のコミュニケーション力を確実に育成し、小中一貫教育の理念の実現につなげていきたい。そのためにも、本年度の研究成果と課題を土佐山小・中学校全体で共有していくことが重要と考える。

#### 【引用・参考文献】

- ・呉市教育委員会 監修 天笠茂 (2011)『小中一貫教育のマネジメント 呉市の教育改革』ぎょうせい
- ・広島県呉市立五番町小学校・二河小学校・二河中学校 監修 天笠茂 (2005)『公立小中で創る一貫教育4・3・2のカリキュラムが拓く新しい学び』ぎょうせい

資料1 小中合同授業における児童生徒の様子（抜粋）

《小中合同授業 1回目》

<p>本時は、小中合同授業の1回目である。中学1年生と5年生が、3年生に俳句について説明したり、クイズを出したりした。その後、縦割り班で季語集めをした。</p>	
◆学習活動	・児童生徒の様子
◆中学生が俳句のきまりについて説明する。 ・俳句の音読後、中学生の「気づいたことは何かないですか。」という質問に対して、3年生がどう答えてよいか分からず戸惑っていると、 <u>5年生が3年生に小声で音数をかぞえてヒントを出したり、中学生が「わかる？」と声をかけたりしていた。</u> ・質問した中学生ももう一度音読したり、言い方をかえたりして答えを導き出そうとしていた。 ◆縦割り班で季語集めをする。 ・季語集めの場面では、班長の中学生が「小学生から季語を出してもらおう」と言ったり、 <u>発言していない小学生に対して、「Eちゃん、ないですか。」と声をかけたり、「もうない？」と聞いたりしていた。</u> ・ <u>出された意見に対して、「なるほど。」「いいね。」などと発言し、その意見を取り入れていた。</u>	コミュニケーション力に関する見取り ・3年生が戸惑っているのを見て、何とかしてあげようという思いを持っている。他者のことを考えることができています。 【②他者の考えを理解する力】 ・相手にどのような話し方をすれば伝わるのかを考え、工夫している。 【①自分の思いや考えを伝える力】 ・中学生といっしょでは意見を言いにくいだろう、少しでも発言しやすいようにと小学生のことを大切に考えた発言である。 【④他者とかかわる力】 ・他者の思いや考えのよさを認めることができています。 【③他者の考えを受け止める力】
考 察	<p>・3年生が戸惑っていると、中学生や5年生が「わかる？」と声をかけたり、ヒントを出したりしていた。<u>積極的にかかわろうという思いや3年生に対する思いやりの気持ちを感じた。</u> ・中学生は5年生の発表を聞いた瞬間、顔の表情が陰しく変わった。自分たちの発表より、大きな声ではきはきと話しているのを見て、自分たちの話し方の不十分だった点に気づくことができた。 ・最初は表情が硬かった子どもも班活動の季語集めでは緊張感が取れ、表情も明るくなった。3年生や5年生も積極的に意見を出すことができていた。発言できていない小学生には「Eちゃん、ないですか。」と中学生が声をかけたり、<u>出された意見に対して、5年生が「なるほど。」「いいね。」などと発言したりするなど相手のことを思いやり、認める言動が見られた。</u></p>

《小中合同授業 2回目》

<p>本時は、小中合同授業の2回目である。地域の方を含んだ縦割り班で地域を散策して、俳句をつくり、句会を行った。</p>	
◆学習活動	・児童生徒の様子
◆縦割り班で地域を散策し、秋（冬）の季語を見つけ、感じたことを俳句にする。 ・ <u>地域の人や班員との会話から俳句をつくることができていた。</u> ・ <u>「Jさん（地域の人）に花の名前を教えてもらって俳句をつくった。」</u> （5年生） ◆班の中で、つくった俳句について交流する。 ・班会を始めるときに、中学生が小学生の背中をやさしくたたき、後ろを向くように声をかけていた。 ・小学生が俳句をつくった理由を言っていなかったら、「理由は？」と班長が聞いた。「特になし。」と答えると、「あるろう？」とさらに聞いていた。 ・ <u>地域の方が俳句を言うとき、班員が頭をよせて聞いていた。</u> <u>また、難しい言葉の説明をしてくれたら、うなずきながら聞いていた。</u> ・ <u>地域の方の感想をうれしそうに聞いていた。</u>	コミュニケーション力に関する見取り ・自ら進んで様々な人とかかわろうとし、かかわりを通して、自分の考えを深めることができています。 【④他者とかかわる力】 ・小学生と積極的にかかわろうとしている。 【④他者とかかわる力】 ・思いを話すことができていない小学生に対して、少しでも思いを引き出してあげようとしている。 【④他者とかかわる力】 ・地域の方とかかわる中で、様々なもの見方や感じ方があることに気づくことができています。 【②他者の考えを理解する力】
考 察	<p>・1回目と同じ班での活動だったので、1回目より会話がはずんでいた。<u>中学生が進んで小学生に話しかけ、小学生も分からない植物の名前などを聞くことができていた。</u>また、短時間で俳句をつくることのできるか心配していたが、<u>どの子どもも地域の方に積極的に分からないことを聞いたり、話しかけたりするなかで、俳句をつくることのできていた。</u> ・つくった俳句を交流する場面では、それぞれが俳句とつくった時の思いを発表し、感想を出し合った。地域の方や班員の俳句に興味を持って聞き、素直な感想を言うことができていた。班長が上手く進行できなかった班もあったが、小学生の思いを引き出そうと努力することができていた。</p>
地 域 の 方 の 感 想	<p>・小学生は中学生に興味深く、いろんな事を聞き、話していた。 ・子どもたちが積極的に取り組んでいる姿がとてもよかったです。また、ひとりひとりが感想を言えるのも大変良かったです。 ・子どもたちは素直に見たまま、感じたままを自分の言葉で上手く表現できていた。 ・自然を感じるとか歩いてみて自分が抱く心というものとはこれから大切なものなので、通学路の風景や家の近くで見ている風景をこれを機に俳句にするとということも心がけていただけたらと思います。</p>